

我が子について感ずることゝも

醫學博士 夫人 前田 すみ子

日に日に新しく進んで行かれる皆様の中で、朝から晩まで澤山の子供達の世話にばかりかまつて居りまして、私自身も昔の儘の古い教育をうけたばかりで、一向進歩して行く事も出来ませんのに、かれこれ子供の教育のお話等はどても出来ない次第でございます。六男の護郎が唯今七つで、お茶の水の附屬幼稚園に通學して居ります關係上、其處に通つて居られる方々と教育上のお考へでも伺うて、頭の古い私の參考にでも致せばよろしいのでございますが、それさへなかく出来かねて居ります。

護郎は幼い頃二三歳までは、身體が餘り丈夫でございませんでしたので、身體の健全といふ事を第一に心掛けました。醫者の家庭に居ります爲か、身體の健全といふ事が何よりも大切なやうに思はれます。身體の健全はどうしても、食物に依るのでございますから、食物の事は一更氣をつけて居ります、これと云つて、別に新しい改良といふ事もございま

せんが、とにかく子供の體質に合つた物をたべさせるやうにして居ります。子供の食物に就いて何か新しい規則だつた研究をしたいと思つて居ります。又子供の衣服としては、やはり洋服の方がよろしいと存じ、立派なものは出来なくとも、相當なものは家庭でつくる考へで居ります。運動をする上にも、經濟の點から見ましても、洋服の方が結構でございます。衣服改良會等に、よく御誘ひを受けますが、忙しいもので、つひ何處の會にも出席致しかねて居ります。

子供には、身體の健全と、精神の修養とから、郊外散歩を奨勵して居ります。日曜日には、郊外の空氣のよい所に連れて行つて、思ふ存分遊ばせることは、身體をよくし、頭腦を爽かにします。その他、醫師のやうに人々の出入の多い家庭で、子供の教育上注意しなければなりません。澤山の人にもまれて、子供らしい心持ちを失はないやうにする事であ

ります。看護婦や患者の方々に、ざわ／＼して居ります所には、出さないやうに致します。幸い私宅では、病院の方と宅の方と建物が別になつて居りますので、さほど監督に注意が要りませんが、病院と自宅と一緒になつてゐるところでは、誠に氣をつけねばならない事と思ひます。

護郎は、趣味としては、繪とピアノが好きらしく見えます。これは多分小さい時體がすぐれませんか、ノートに鉛筆で、電車や自動車、繪を描いてゐましたのが、基となつた事と思はれます。今でも暇さへあればいつも何かを描いて居ります。又ピアノが好きになりましたのは、護郎の姉が宅に居りました時分に、ピアノをよく弾いて居りましたもので、この子もいつの間にかピアノに手を觸れることが好きになりましたのでございませう。幼稚園で教へて頂く唱歌を、宅へもどりまして譜を見ずに、すら／＼と弾くこともあります。ピアノを一日に一回位づゝ先生に来ていたゞいて練習をさせやうかと思つて居りますが、男の子なものでございませうから、それもどうかと思つて居ります。

この子は、上の兄さん達が大學と中學へ行つて居

りまして、年が違つて居りますもので、家でお友達がございせんものですから、幼稚園へお願ひしてゐるのでございますが、小さい子供を幼稚園にやるかやらぬかといふ問題は、色々やかましく云はれて居ります様ですが、やつぱり幼稚園が近くでございませうれば、その方へ通はせた方が子供の教育上効果があるやうでございます。子供に就いては、科學的に研究して居られる先生方が、毎日つきそつて教へ導いて下さるので、とても家でごろ／＼してゐるのとは全で違つて居ります。

子供は將來どう云ふ風に教育してゆくか、父の職業をつがせべきものかどうかは、未だ年が小さうございませうから、わかりませんでございます。昨年幼稚園にあがりたてに、初めて粘土細工をいたしました折に、先生が何でも好きなものをつくるやうに言はれました。その時他のお子さん方は、ワンワンや電車等をつくられたさうですが、この子は小さい丸いものを幾つもつくりましたので、先生が何ですかとお尋ねになつた時、これは丸薬です、と云つたさうでございます。後でこの話を聞いて皆で大笑ひをいたしました。やはり醫者のうちに育つてゐる爲に、

いつかそんなやうな事が心にはいつてしまつたのでございませうが、この一時の出来心のやうなあらはれを以て、この子は醫者に適してゐるかどうか等といふ事はわからないのでございます。たゞ將來醫師に適するやうでしたら、さうしたいと思ひます。

私共は、もと名古屋に居りましたのでございます

見たまゝ

六つ位の女の子をかしらに四つ位の男の子と母さんの背に負はれた三つ位の女の子が雨のしどろ／＼と降る九月の或る日、院線に乗り込ました。車中の一人は、すぐこのお母さんに席をゆづりました。背の女の子は腰掛のところに立ちました。上の二人も割り込む様にして狭い席に立つて窓外をながめておりました。その中に一番末の子がお母さんにしきりに何やらねだつておりましたが母さんは、風呂敷包の中から大きなバナナを、しかもまだ青いところのあるのを一本、そのまゝ與へました。上の二人はこの時、すぐふりむいて欲しさうにしましたが、母さんの權幕にあきらめて、また窓の外を見つゞけました。それでも時々横目で妹の口元をにらんでゐるのでした。

バナナを手にした女の子は、いきなりその皮をなめ始めました。端から端まで。母さんはだまつておりました。何か考へごどもしてゐるかの様に。その中一方の端から皮のまゝかちつておりましたが思ふ様にたべられないので母さんにむいてくれと云ひました。母さんはむきました。それもすつかり皮をどつてやるでもなく、皮と肉との間にある纖維もそのまゝにして渡しました。見る間にバナナは喰べられてしまひました。皮の内面まで齒のあとがたてられて。この子はこれがすむと母さんの懷をさがしました。足をばた／＼させて隣席の乗客の胸の邊をうちながら乳房をなぶつておりましたが、それも倦きると母さんの手にある蝙蝠傘の柄をしやぶりはじめました。雨水と手垢でよごれたのを、やがて降車驛近くになるとこの子は無理に母さんの背のせられておぶひ紐で結ばれました。いやだといつてちれてぬぎすてゝあつた足駄をはいて傘をもつて母さんのおとすつておきました。電車がどまつた時二人の兄弟は、めい／＼ぬぎすてゝあつた足駄をはいて傘をもつて母さんのおとすつておきました。その時姉さんの方が先に末の子のすてゝあつたバナナの皮を見つけて弟に示しました。弟は手にどつて食べる處が残つてゐないかごみておりました。母さんも三人の子も相當な服装をしてゐました。(丁子)

が、私共の知合の醫師の方でお庭に見事に柿がなつて居りますので、ある秋御女中さんがお子さんの望むにまかせてさし上げたら一晩の中に死んでしまつたのを存じて居ります。子供をもつ親は、かううしたわづかの出来事の爲にとりかへしのつかぬ事をせぬやうに注意したいものでございます。